

第4回 ごみ処理恵庭モデル検討会(議事録)

日時:令和4年7月4日(月)17:00~19:00

場所:市民活動センター(えにあす内)2階 会議室8-3

出席者:9名 【会長】中尾 文子
【副会長】吉田 英樹
【委員】河野 恵美・小林 貴・落合 信也・菅原 伸治
平井 梓・石上 一美・槇 愛美

欠席者:1名 【委員】大嶋 亮馬

事務局側:小路 弘樹(生活環境部次長)・中山 真(廃棄物管理課長)
田中 徹(同主幹)・石丸 直稔(同主査)・谷村 直宏(同主査)
水野 光代(同主査)・牧野 有紘(同主事)

1. 開 会

2. 挨拶(会長)

3. 第3回ごみ処理恵庭モデル検討会の振り返り

4. 議 事

(1)粗大ごみ収集の検討

- 1)粗大ごみ収集の沿革
- 2)粗大ごみ事前申込制の現状
- 3)粗大ごみの排出状況
- 4)粗大ごみ収集のあり方検討について

(2)有料指定ごみ袋の検討

(3)第5回以降のごみ処理恵庭モデル検討会の進め方

5. その他

(事務局より「第5回目の検討会は7月11日を予定していること」を報告。)

6. 閉 会

～議事要旨～

5 議事

(1)粗大ごみ収集の検討

1)粗大ごみ収集の沿革

～事務局より説明(資料1「第4回ごみ処理恵庭モデル検討会」2ページから)～

副会長：粗大ごみの値上げもあったということですが、コールセンター方式後の粗大ごみ収集量が900トン程から約1/3に減少しています。減少分はどこへ行ったのか、市民の行動変容があったのか把握していたら教えてください。

事務局：市民が買い替えの時に店舗で引き取りを行ったり、リサイクルショップで売却したり等の実績は市では把握できません。市は全体数量が減ったことは把握できますが、そもそも排出しなかったことによるものなのか、リサイクルなどによって排出しなかったのかなどの詳細までは把握できていない状況です。

副会長：実際に市に住んでいる委員の方の意見はどうでしょうか。

委員 A：燃えるごみの収集量が増えていることから、粗大ごみの収集日まで待つことができず、無理にでも解体して燃えるごみの袋に入れて出す人も多いのかなと感じます。また、慣れている人は粗大ごみを直接搬入している人もいます。

委員 B：粗大ごみは直接搬入した方が手数料は安く済みます。

副会長：どこかを締めるとどこかへ流れることになり、いろいろと良い影響や悪い影響が出ることもあると思いますがいかがでしょうか。

事務局：例えばカラーボックスを100円で排出していたものを、釘を抜いて解体して燃えるごみ袋に入れて出す人や、働いていて平日にコールセンターに電話できない人は、ごみ処理場は祝日、土曜日の午前中は開いているので直接搬入する人もいます。また、令和元年度に手数料値上がり前の駆け込み需要があったので、令和2年度にコールセンターが煩わしいという理由で、どの程度減少したのかは分かりません。要因に関しては、委託先の肌感覚が一番近いと思いますが、詳細までは聞き取りできていない状況です。

会 長：（資料6ページの）混合廃棄物が多く可燃性粗大は計画量を下回っているとはどういう意味ですか。

事 務 局： 申込があった時点で大部分が可燃性の物であれば焼却施設へ持って行き、そこで簡単に分解できないものは最終処分場へ持っていくこととしていますが、鉄などの不燃物を容易に取り外しができるものが想定よりも少なかったということです。ただ、計画自体も混合廃棄物がどの位あるのか分からなかったため、概ね半々として計画を作成していた経緯もあります。

副 会 長： コールセンターで可燃、不燃を判定する際にどのようなヒアリングを実施しているのでしょうか。例えば運動器具など物によっては口頭では説明が難しくわかりづらいと思いますが。

事 務 局： 電話での聞き取りの際には、廃棄物処理の概要 82 ページから 88 ページまでが、粗大ごみの品目と料金になりますので、こちらの項目を確認します。

副 会 長： ヒアリングをして確認の後、焼却施設か最終処分場へ持って行くかの判断になるのでしょうか。

事 務 局： 仰るとおりです。ただ、最終的には現場の収集時点での判断ということになります。

副 会 長： その割合が半々になるという意味での計画ということでしょうか。

事 務 局： そのとおりです。

委 員 B： 粗大ごみの量自体は減っているのでしょうか。

事 務 局： 平成 30 年度に 921 トンあった収集量が、令和元年度からは 300 トン台で推移しており、収集量はかなり減っております。減少分が、家庭にストックされているのか、直接搬入に移行したのか、リサイクルされているのかまでは把握できていません。複合的に様々な要因が絡んだ結果、可燃性粗大ごみが計画を下回ったということになります。

副 会 長： 家庭系一般廃棄物のごみ発生量に変化はありません。市民が生活していく中でごみの発生量は変わっていませんが、粗大ごみ収集量を見ると減少しており、その差分がどこへ行ってしまったのか。今後、粗大ごみの収集方式を変えていくと、また違うところへ行くと思うので、そこを予想していくことも重要だと思います。

事 務 局： 粗大ごみは、今後 10 年で恵庭市でも高齢化が進み、単身高齢者の施設入所や死去による家財処分により増加傾向になると思います。市では、市外居住者が盤尻の最終処分場などへ

直接搬入する際には事前申請を求めています。月平均で 3～4 件の申請があり増加傾向で、市外に住む子供が親の家財処分をすることが明らかに増えています。また、家財処分には、シルバー人材センターや一般廃棄物運搬許可業者、便利屋を活用している実態もあります。今後は買い替え以外で発生する粗大ごみが増えていくことについても検討する必要があると考えています。

(1)粗大ごみ収集の検討

2)粗大ごみ事前申込制の現状

～事務局より説明(資料1「第4回ごみ処理恵庭モデル検討会」7ページから)～

副会長：コールセンター方式による粗大ごみ収集は全道的には少ないですが、近隣市の比較では、なぜこの4市(A市、B市、C市、D市)としたのか教えてください。

事務局：恵庭市では粗大ごみをコールセンター方式で収集しており、近隣市は全てコールセンター方式を導入しているため、その比較としました。

副会長：恵庭市がコールセンター方式を導入したのは近隣市が導入していたからでしょうか。

事務局：コールセンター方式を導入したのは、焼却施設の稼働による分別変更に伴い、可燃と不燃を分けて収集することと、手数料変更に伴い品目ごとに手数料を市民に伝えるということ、この2点が大きな要因ですが、近隣市で導入していることも要因の1つです。

副会長：収集トータルコストの比較では、B市は恵庭市より人口が3割程度多いですが、費用は1,400万円で恵庭市の半分くらいとなっています。A市では恵庭市より人口が少ないですが、費用はさほど変わりません。同じコールセンター方式なのに金額が違うのはどういった理由でしょうか。

事務局：A市では土日もコールセンターが稼働しているため、稼働日数が多くなっております。また、恵庭市とD市は戸別収集ですが、それ以外の市ではステーション方式で収集しているため、その分経費が抑えられているかと思えます。

事務局：B市のコストが安くなる理由として、市が段ボール収集を行っていないことが考えられます。集団資源回収やじゅんかんコンビニを利用することが市民に浸透していると資料から推察され、受付個数も恵庭市に比べてB市は半分となっております。

委員B：受付委託料733万円の積算根拠を教えてください。

事務局： 人員は電話受付2名、事務作業1名の計3名、勤務時間は平日9時から17時までとして積算しております。電話を受け付けた内容を収集員へ指示を出す必要があるため、事務員を1名おいています。

委員 A： じゅんかんコンビニは市内1カ所でしょうか。また、B市は何カ所あるのでしょうか。

事務局： 恵庭市は1カ所です。B市は2カ所、参考までにC市は2カ所、D市は1カ所、A市はゼロ、E市は3カ所あります。

委員 A： 市内に1カ所だけだと混んでいると諦めて帰る人もいます。黄金にしかないので市内の遠い場所から来る人は遠いし大変だと思います。

副会長： 粗大ごみ収集量約300トンに対してじゅんかんコンビニの回収実績が約980トンあり、事業系の物も入っているかもしれないが、粗大ごみが流れているのかもしれないと推測されます。本来、自治体が実施するサービスを民間事業者が実施してくれるので、こういう受け皿があるといいですね。じゅんかんコンビニでは利用者はきちんと分別している状況なのでしょうか。

事務局： 小型家電ではリチウムイオン電池の混入が多いとじゅんかんコンビニ運営担当者から聞いています。なお、市の窓口回収では電池を確認して取り外してもらっています。

委員 A： 近所に住んでいますが、最近はきれいに分別されていないと感じています。コロナ禍以降はダンボールが増加し、衣類は減少しているように見えます。

副会長： じゅんかんコンビニの小型家電は回収ボックスにどさっと入れるような感じで電池も混入してしまうのでしょうか。恵庭市はどのように電池を回収しているか教えてください。

事務局： 小型家電は回収ボックスに入れていますが。恵庭市では電池を資源物として収集しています。

(1)粗大ごみ収集の検討

3)粗大ごみの排出状況

～事務局より説明(資料1「第4回ごみ処理恵庭モデル検討会」13ページから)～

質疑なし

(1)粗大ごみ収集の検討

4)粗大ごみ収集のあり方検討について

～事務局より説明(資料1「第4回ごみ処理恵庭モデル検討会」16ページから)～

委員 B: コールセンター方式は悪くなく、粗大ごみが可燃、不燃と適切に分別され、品目ごとに価格設定されていることは良いと思います。計画から実績が半分以下だとしても、今から不燃回収日収集に戻すことには疑問を感じます。ネットを活用することでコールセンターの負担を減らし、コスト削減にも繋がるのではないのでしょうか。また、じゅんかんコンビニが重用されているので、市の遊休地に誘致することも検討されてはいかがでしょうか。

事務局: コールセンター方式は悪くはないですが、24時間受付ができていない現状もあります。メールで申込も受け付けておりますが、週に1件程度の状況です。他市町村の例を見ればラインで申し込めるところもあり、デジタル化によって手数料まで終了できれば、市がごみ処理券を作る必要もなくなるので、考えられる中で良いものを取り入れていくことが大事だと思います。その割合が増えていけばコールセンターの配置人員も2名から1名に減らすとか、事務員が電話での聞き取り内容をわざわざ打ち込んでいるところを、デジタル媒体を活用し、申込者が打ち込んでいくような流れを作れると、事務員も減らすことができ、委託費も削減できるのではないかと考えております。

会長: (20ページに記載の)粗大ごみのリユース・リペア事業の検討について詳しく説明してください。

事務局: 他市町村の事例では、粗大ごみ回収の時にごみ処理券にて再利用してもいいと本人の承諾を得たもので、状態が良いものに関してはごみとして回収するのではなく、他の市民へ譲ったり、一部修復して再利用したりすることも考えております。ごみの排出量が減ることにもなりますが、直す費用なども掛かりますので、良い取り組みだと思いますが、費用面との兼ね合いにもなると思います。

副会長: 室蘭市でも粗大ごみで回収したものを施設に保管して、年3回程度、市民に譲渡する機会を作っています。集めて並べた物の中から欲しいものに申し込んでもらう形ですが、人気のある物は抽選となり、市民からも好評です。但し、直して保管するには費用が掛かります。ごみの量が何10トンも減るわけではないので、ごみの減量というよりは市民へのリサイクルに対するPR効果という意味合いが強いと思います。

事務局: リユースの関係ですが、恵庭市では、株式会社マーケットエンタープライズと連携協定を締結して同社が提供する「おいくら」での買取査定依頼が行えます。そういった民間事業者と連携してリユース事業をできないかということも考えております。

委員 A: 高齢者のことを考えるとコールセンターの方が良いと思いますが、働いている人は24時間受付ができないと困るのではないのでしょうか。収集できるサイズが決まっているので、自分で持って行ける人は直接搬入しています。市としては、粗大ごみを収集するのと直接搬入するのでは、収益面を考えるとどちらが良いのでしょうか。

事務局: 市民にとっては直接搬入する方が手数料は高くなります。直接搬入では10kg当たり231円掛かります。トラックスケールでは12kgを超えると20kgとなります。収集では、ほとんどの品目が200円の手数料になりますので、市民にとっては市の収集で出した方が安くなります。現状では、粗大の収集は15時まで掛かると想定していましたが、14時頃には終わっているため、収集量にまだ余裕がありますので、収集量が増えても委託費が上がることはありません。ごみ処理場でも直接搬入の受入の際には人員を配置しなければなりません。過去にごみを捨てようとして落ちてしまった人もいますので、なるべく直接搬入は控えてほしいと考えております。

委員 A: サイズによって収集できないものがあるので平ボディ車での収集も考えてほしいです。また、手数料が31円の差なら、収集日まで待つ煩わしさが勝ってしまい、直接搬入してしまいます。施設利用料などを取ることも検討するなど工夫が必要だと思います。

委員 B: 可燃ごみと不燃ごみは一緒に収集しているのでしょうか。それとも分けて収集していますか。また別業者でおこなっているのでしょうか。

事務局: 収集は1社で行っています。1台で収集していますので不燃ごみと可燃ごみを一緒に収集していますが、積載するスペースを分けて運びます。先に焼却施設へ行って可燃ごみを捨て、その後にごみ処理場へ行って不燃ごみを捨てる流れになります。

委員 C: 高齢者の住宅で回収してほしいものがあつた際に、コールセンターに電話をしてもパッカー車しかない場合は、マットレスなどは回収できないということでしょうか。

事務局: コールセンター方式であれば、聞き取つた内容に基づき、平ボディ車を用意して回収することができます。

委員 A: 物干し竿を捨てようとコールセンターに電話したが収集できないと言われたことがありました。自分でも小さくはできないので、結局ごみ処理場へ直接搬入しました。市民としてはコールセンターでしっかり対応してほしいと思います。

委員 B: 収集には基準もありますがグレーゾーンもあると思います。ネットに書いてしまうと難しい部分もあるので、電話でのやり取りができるコールセンターは必要だと思います。

副会長：ステーション方式では不特定多数の人が捨てるので違反ごみが増える問題があります。戸別収集ではルールを守るという意識も強くなるので、良いところは残していくべきではないでしょうか。コールセンター方式では全体コストが3,200万円掛かりますが、そこで分別が可能となっているメリットもあります。ただ、粗大ごみ330トン集めるのに対して3,200万円はコストの割合が高いように感じます。将来的にコストを下げる必要が出てきた時には見直す必要があるのではないのでしょうか。

事務局：粗大収集は地区ごとで週1回と決めています。例えば2週に1回にするなど収集コスト削減を検討しなければならないと思います。

会長：粗大ごみの手数料は東京では300円から1,600円なので、恵庭市の100円で捨てられるというのは安いと感じる部分もあります。

(2)有料指定ごみ袋の検討

～事務局より説明(資料1「第4回ごみ処理恵庭モデル検討会」21ページから)～

委員D：この2年半、コロナ禍により自宅で過ごす人が非常に増えました。5リットルの袋が売れていない背景にもなっていると思います。そういった検証も必要だと思いますが、見解があれば教えてください。

事務局：コロナで在宅の機会が増えたことで家庭ごみの量が増え、10リットルの袋が増えたことも想定できます。可燃の5リットルであれば臭いが出る生ものが入らないですし、臭いが出るものとしてはオムツが考えられますが、おそらく5リットルより10リットルの袋を使う方が多いのではないかと考えています。また、5リットルの袋を廃止することで収集員のごみ袋を取る回数も減らしていきたいという意味合いもあります。コロナ禍の影響により需要に影響が出たことも考えつつ、何らかの調査はしていきたいと思っています。

委員D：進めていくのは良いと思うが、導入時に必要な容量種として設定しているので、廃止した際にはどうしてこの容量種としたのか、きちんと市民へ説明が必要かと思っています。

事務局：5リットルを使用する人がどのようなニーズなのか捉えながら、代替として10リットルを提案するなどしていきたいと思っています。

委員C：需要が少ないから無くしてコストカットするということも良いと思いますが、本当にごみを出さない生活をされている方もいて、1週間に燃えるごみ袋1枚で十分という人もいらっしゃる

います。エコだと思し、そういう方が不便になるのはどうかとも思っています。そういう市民の方をクローズアップし、どういう生活をして、ごみを出さないためにどう努力をされているのか、そこを発信していくことも忘れてはいけないのではないのでしょうか。ただ需要が少ないから廃止すればよいということではなくて、収入を上げるということであれば袋が大きくなればなるほど割高になるようにすれば、市民はごみを減らそうとするし、より小さな袋で出そうという意識付けにはいいのかなと思います。ごみ処理券に関しては、発行枚数自体を減らすという意味でネットやアプリを活用して処理することで、処理券自体を必要なく粗大ごみを回収していくシステムを構築できれば、先の話にはなりますが、ごみ処理券自体も少なくなると思います。生ごみの大きい袋は、大きい分、ごみを出す量も多いということなので無くしてもいいのかなと思います。家から出るごみ自体を少なくしていくという市民教育も大事ですし、そもそも大きい袋を無くすことでコストカットすることも大事です。もし市民に甘えという部分があるとしたら、そこは容量種によって傾斜をつけることで、収入にも繋がるので悪くないのではないかと思います。そのバランスを取っていければいいのかなと思いました。

事務局： ごみを出さない生活をしている市民の方をクローズアップし、どのような取り組みをしているのか、他の方への参考にもなりますので、周知、啓発していくことも有用だかと思います。5リットル袋が少ないから廃止するというところに安易に直結させない方が良いと感じ、あわせて袋が大きくなると単価を上げるということに着眼点を置くことも大事だと思いました。製造単価を見ても大きい袋の方が原反を使う量が多いので高くなりますし、リットルいくらではなく製造コストに容量ごとの手数料を加算することも検討していくことも必要なのかなと感じました。ただ、全道でも高いと言われている恵庭市のごみ手数料に更に製造単価を乗せることが市民に受け入れられるかと言いますと、今後の施設の処理経費を出していく中で検討するという話になると思いますが、手数料を上げる際には製造コストを削減することでもしていく必要があると思います。ごみ処理券は市で作っておりますが、誘導策としてインターネットで申し込んだ方が安くなるような価格設定も有用かなと思います。国の方でもマイナポータルでの粗大ごみの申込も実施している中で、恵庭市でもそういったアプリケーションとの連携の可能性についても引き続き検討していきたいと思います。

委員 B： ごみ袋の素材も脱炭素に配慮したものとすることは具体的にどういうことでしょうか。脱炭素に配慮することは製造コストを下げることに相反するもので、手数料にそのコストが上乗せになるなら、どのように市民へ説明していくのが難しいところだと思います。

事務局： どのくらい製造コストが高くなるのか、二酸化炭素がどの程度減らせることができるのかによると思います。貝殻の再生利用や米などバイオプラスチックも千差万別ですので、コストも比較検討しながら、どの位までなら市民が受容していただけるのか示していきたいと考えております。

委員 A： 市民目線としては不燃の40リットル袋はばら売りしてほしいです。適切に分別していくと袋が満杯に溜まるまで時間も掛かるし、置いておくと邪魔にもなります。ごみ処理券は400円券がなくなれば100円券を4枚貼ればいいので無くしてもよいのではないのでしょうか。また、じゅんかんコンビニは出すことによってポイント還元があり、排出者にメリットがあるので使われている部分もあると思います。ネットを使うことによって手数料が安くなるなど市民に対して必ず何かしらで還元される、行動した排出者にメリットの出る仕組みづくりをすることが大事だなと思います。

事務局： 今回の検討案には載せていませんが、近隣他市は1組10枚、恵庭市は1組5枚で、1組5枚ならばばら売りしなくてもいいのかなというところも、ばら売りが進まない理由のひとつなのかなと思います。ただ、恵庭駅のセブンイレブンがばら売りを開始していますし、他のセブンイレブンにばら売りの話をしたところ、前向きなご意見を頂いておりますので、年度内にばら売りの店舗が増えるような努力をしていきたいと思っています。1組10枚入りにできないかということも検討していきますし、ネット活用によるインセンティブに関してもあわせて検討していきたいと思っています。

副会長： 室蘭市では5リットル袋の取り扱いを止めたところです。ごみを出さない生活をしている方への配慮は必要だと思いますが、5リットルの袋がたくさん排出されると収集員の作業量も増え大変なので、そのことを考えてやめようという話になりました。5リットル袋の製造コストを見ると市の財政を圧迫しているわけでもなく、利益率は低いですが逆ザヤにもなっていないので、コストが止める理由にはならないと思いますが、収集員が5リットル袋を集めることがどの程度負担になっているのか確認する必要があるのではないかと思います。収集員は低賃金で重労働なので、労働改善、環境改善という視点から5リットル袋をやめるのか検討する必要があると思います。

事務局： 収集業者の話も確認してみたいと思います。

委員 C： 外装袋を廃止することは検討できないでしょうか。買う大きさは決まっているので、1組5枚ずつでも10枚ずつでもトータルで払うお金は一緒なので、外装袋のコストカットになるのであれば1組10枚でも良いのかなと思いましたが、主人の実家のある豊幌町ではそもそも外装袋自体がなく、ロール状になっていて輪ゴムで止めたようになっています。外装袋をなくすことでコストカットにもなり、エコにもなる。また、ばら売りするために外装袋から出して捨てるのも勿体ない。それであれば外装袋自体をなくすことも1つの方法なのかなと思います。

事務局： 外装袋に製造年月日を入れており、不良品が出た際に活用されている状況です。外装袋自体をなくすことは製造にも関わるため、製造委託業者の意見も確認したいと思います。

委員 A： 外装袋は機械で封入できると思いますが、外装袋を止めたことによって手作業となり人件費がかえって掛かるのであれば、ごみを減らすこととどちらがよいのかということになります。袋の大きさによって料金を変えるのは良いと感じました。袋が大きくなって料金が上がれば、小さい袋で出そうと努力すると思うし、ごみの減量にもつながると思うので、製造コストとは別に袋が大きくなれば手数料が上がるというのは良いと思います。

委員 B： ばら売りすると販売店の手間が掛かり、在庫管理も大変になるので嫌がられる可能性もあります。ごみ袋はどの段階で市の売り上げとなるでしょうか。

事務局： 販売店に納入した段階で市の売り上げとなります。

(3)第5回以降のごみ処理に恵庭モデル検討会の進め方

～事務局より説明(資料1「第4回ごみ処理恵庭モデル検討会」25ページから)～

会長： ワークショップでは何か資料は用意されるのでしょうか。

事務局： 資料と、ワークショップ用の模造紙等事務局で手配いたします。

以上



第4回ごみ処理恵庭モデル検討会の様子(1)



第4回ごみ処理恵庭モデル検討会の様子(2)